

魚津水族館における「お魚ショー」について

*1谷川尚悦

**2Syoetsu TANIKAWA

はじめに

我々人間と同じように、自然界にすむ魚たちも、生活する為にいろいろな習性や能力を備えている。水族館で飼っているたくさんの魚たちにもいろいろな習性や行動が見られる。

魚津水族館では、1981年4月の三代目水族館の開館に伴い、実験水槽と称した水槽で、馴致、調教した魚を用いた「お魚ショー」を公開してきた。

ショーを通して、魚のもっている習性や生態を知ってもらい、少しでも理解を深めてもらうことを目的としている。

ショーの時は女性館員が水槽の前に立ち、魚の習性や生態について説明しながら進行を行っている。

ショーの時間は、当初は平日で6回、日曜・祭日は7回で、必要に応じて2～3回の臨時のショータイムをもうけていた。1986年6月からは、日曜・祭日とも6回としている。

開館から現在までの実験水槽の状況とショーに使用した魚およびショーの種目について紹介する。

設 備

展示水槽(図1)はアクリル製で3つあり、縦890mm×横1,200mmで奥行きは底面で600mm、上面で750mmの台形を逆さにした形になっている(水量0.52t)。展示水槽は観客通路より高さ1.5mに位置し、観客側に傾斜が施してある。展示水槽の裏方には、予備槽として縦800mm×横1,200mm×奥行き600mm(水量0.58t)の2槽を備えている。展示水槽と予備槽を合わせた5槽の飼育水(水量2.72t)を、開放



図1 展示水槽の裏方。左2つが予備水槽

式濾過槽で濾過循環を行い、水温を一定に保つため熱交換を行っている。また、展示水槽の背面は人影が映らないように、ベニヤ板で遮光した。

展示水槽の照明は、各水槽に20Wの蛍光灯2本と300Wのスポットライト2灯を備え、上部からの照明としてある。予備水槽においては、20Wの蛍光灯2本ずつを上部に備えている。

観客側と展示水槽の裏方には、スピーカーが設置しており、観客側に解説用のワイヤレスマイクを備えている。

ショーに使用した魚について

開館以来、ショーに使用している魚は、イシダイ *Oplegnathus fasciatus* 6個体、モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* 1個体、ハリセンボン *Diodon holocanthus* 1個体の3種8個体である。

イシダイは地元の定置網で捕れるので多数搬入し、体形がしっかりしていて活発に泳ぐものを選別した。

モンガラカワハギは、業者から3尾購入し、愛きょうの良さそうな個体を選んだ。

ハリセンボンは、初めのうちは地元で捕れた

※1 魚津水族館(富山県魚津市三ヶ1390)

※2 Uozu Aquarium, Uozu, Toyama Pref., 937, Japan.

ものを馴致していたが、環境にうまく馴れてくれず、業者から購入したものに切り替えた。

これらは、よく餌を食べ、食いだめをしない事や人に馴れやすいなどの点から、ショーに適しているものと考え採用した。

その他にも、インガキダイ、アミモンガラ、クサフグなど地元で捕れたものを、馴致・調教したが、ショーの公開までは到らなかった。

調教に際しては、常に光→音（ピンセットを鳴らす音）と関連させ、光→音→芸→餌を与えるというように条件づけていった。ショーをする魚には、観客に親しみを持ってもらうために名前をつけた。たとえば、モンガラカワハギ、ハリセンボン、頭をとって「モンちゃん」、「ハリくん」。インダイは魚津地方では、「タカバ、タカワ」と呼ぶことから、「タカちゃん」。よく芸をやるインダイを、ショーマンの上をとって「ショーちゃん」などつけた。

馴致・調教

馴致・調教にあたり、まず入手した魚を予備槽に入れる。魚を水槽に入れると殆どの魚は、体色を著しく黒くせたり、逆に白っぽくする。そして背鰭を立てて水底にうずくまったり、水槽の中を激しく泳ぎ回ったりする。しかし、しばらくたつと少しずつおちついてくる。このころを見計らって、3～5mm角に切ったクロザコエビやムラサキイガイなどをピンセットにつまんで与えた。摂餌するまでに要する時間は、魚種や個体によって差があるが、1日目にして餌を食べる個体もあれば、2～3日程かかる個体もあった。ハリセンボン、モンガラカワハギは、わりと早く餌に応じてくれたが、インダイは個体により餌に対して食欲なものとならないのがみられた。現在までショーに使用した魚の場合は、餌付け後に水槽や人になれるまで約2週間～4ヶ月を要した。

馴致した魚は簡単な調教から始め、しだいに難しくしていった。たとえば口で物をくわえて引っ張らせる場合では、まずプラスチックの小さなビーズにひもをつけた道具を作った。初めはビーズに小さな餌をくっつけて魚の前へ持っ

ていき、食べると同時にすぐ横で新たに餌を与える。次にビーズに綿糸で餌をしぼりつけて魚の前へ持っていく。餌を食べようとして、ビーズごとくわえて、引っ張ったら素早くすぐ横で餌を与える。この様にして反復しているうちに、餌をつけないビーズを水槽に入れるだけで引っ張るようになる。これで調教の完了とした。

ショーの種目

これまで行ったショーの種目は16種目であり、A-物をくぐるタイプ、B-口で物をくわえて引っ張るタイプ、C-口で物をつついて押すタイプの3タイプに分けられる。

Aのタイプには、輪くぐり・トンネルくぐりの2種目。

Bのタイプには、アドバルーン上げ・くす玉割りなどの11種目。

Cのタイプには、たる転がし・新幹線など3種目がある。それぞれの種目についての概要を記す。また、使用した魚の種類を<>内に記した。

◇ A、物をくぐるタイプ ◇

A-①輪くぐり<インダイ>

赤・青・黄など5色の輪をくぐりぬける。最初は3個、続いて5個に挑戦。すっかり馴れ、難しい段違い輪くぐりに移り、好奇心旺盛なところをアピール（図2）。

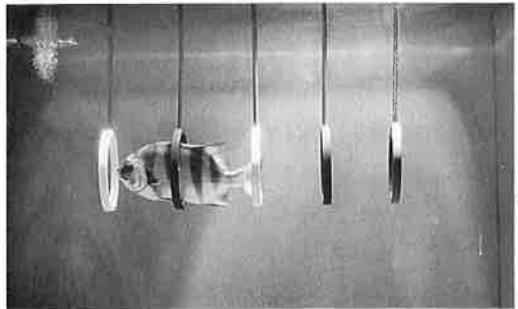


図2 輪くぐりをするインダイの「タカちゃん」

A-②トンネルくぐり<インダイ>

4ヶ月の訓練をへて、まるい窓のついた長さ45cmの黄色いトンネルをスピーディーにくぐり抜ける華麗な芸を披露。

◇ B, 物を引っ張るタイプ ◇

A-①アドバルーン上げ<インダイ>

アドバルーンの入った筒のふたをピンで止められており、インダイがピンをぬくと、来館者を歓迎する字幕をあげる。(特別な行事や来館者には、それぞれに応じた字幕を取りつけた。祝入館者30万人突破・歓迎〇〇など)(図3)。

B-②くす玉割り<インダイ>

直径10cmの黄色いプラスチック製のくす玉の止め金を、口ばしのような強い歯でひきぬくと、中から「またきてね!」の字幕がさがる。(特別な来館者や時節のあいさつなどにも応用した)(図3)。



図3 B-①アドバルーン(写真右)を上げ、B-②くす玉(写真左)を割ったインダイの「ショーちゃん」

B-③[※] たてもん祭り<インダイ>

魚津市のたてもん祭りにちなんで、高さ65cmの「ミニたてもん」に取りつけた9個のちょうちんと1個のあんどんにスイッチのひもを引き灯りをつける(図4)。



図4 たてもんの提灯とあんどんに灯りをつけたインダイの「ショーちゃん」

(注) 魚津が誇る郷土行事の一つで、600年の伝統をもつ。海上安全と豊漁を祈り毎年8月7・8日の夜に行われる。高さ15mほどの帆柱に100個前後の提灯を吊した「たてもん」と呼ばれる重さ1.5tもある舟型をした曳き山を、笛・太鼓にあわせてあやつりながら町内を曳き回す勇壮な祭り。

B-④結婚式<インダイ>

スイッチボックスのひもを引きキャンドルサービスろうそくとハート型のイルミネーションに灯りをつける。

B-⑤クリスマスツリー<インダイ>

毎年、クリスマスシーズンに登場する。ひもを引きスイッチが入ると、たくさんのイルミネーションが点灯する(図5)。



図5 クリスマスツリーのイルミネーションに灯りをつけた、インダイの「ショーちゃん」

B-⑥交通安全<インダイ>

箱のふたに付けたひもを引くとピンがぬけ、横断旗を手にした人気マンガのキャラクター「バイオマン」の人形5体が飛び出す。

B-⑦宝箱<インダイ>

玉手箱の形をした箱のひもを引くと、人気マンガのキャラクター「ガンダム」が飛び出す。

B-⑧結婚式<インダイ>

箱のふたに付けたひもを引くと、新郎新婦に見たてた「ミッキーマウス・ミニーマウス」が登場する。

B-⑨肝だめし<インダイ>

古井戸や水桶のふたにつけたひもを引くと「カッパ」や「ろくろ首のおばけ」がでてくる。続いてひもをひくとちょうちんが割れ、赤い舌

に見たてた字幕がでてくる。

B-⑩玉手箱<インダイ>

毎年5月5日の端午の節句のころに公開した。ひもを引くとプレゼントの玉手箱のふたが開き「こいのぼり」が上がる(図6)。



図6 玉手箱のふたをあけ、こいのぼりを上げたインダイの「ショーちゃん」

B-⑪旗引き<インダイ・ハリセンボン>

長さ80cmのテグスに下げた7枚の旗を端から端まで勢よく引いていく。旗には「歓迎魚津水族館」と書いてある。他に新年のあいさつや成人を祝う字幕にも利用した(図7)。



図7 旗をひいているハリセンボンの「ハリ君」(1981年にはインダイが公開していた)

◇ C, 物をつついて押すタイプ ◇

C-①たる転がし<モンガラカワハギ>

長さ50cmのレールの上に置いたたるを、口をつついてゴールまで転がして行く。

C-②新幹線<インダイ>

長さ約50cmの陸橋の上をおもちゃの新幹線を押ししていく。端にあるトンネルに新幹線の頭部

が入ると、「新幹線開通」の字幕が下りてくる。

C-③雪だるま<インダイ>

長さ約50cmのレールの上にある雪玉に似せた白いボールを、端の穴までつついて転がし「雪だるま」を作る(図8)。



図8 雪だるま作りをしているインダイの「いしまつ君」

おわりに

開館以来これまで10年近くショーにたずさわってきたが、魚のもっている生態や習性をショーを通して観客にどれ程伝える事が出来たか、不安に思うところである。

3タイプ16種目を展示公開してきたが、調教した魚が小道具の色や形が違って、あまり動じる事もなくショーをこなしてくれた事に満足し、小道具を替えて応用するだけにとどまったように思う。

今後いろいろなレパートリーを取り入れ、より難しいショーへの調教に挑戦し充実したコーナーにしていきたいと思っている。

参考文献

磯貝高弘, 1978. 魚類の調教, 飼育ハンドブック第3集, 日本動物園水族館協会.